

本項のポイント

〈ねらい〉

阿蘇の畜産業の低迷と草原が減少しつつある現状を理解し、今草原が抱えている問題を認識させます。

〈進め方〉

本項では、草原が危機に直面しているという事実を伝えます。

野焼きが行われていない草原の写真をみれば、「荒れている」ことがわかります。なぜ荒れているのか、ということから草原の現状についてみていきます。

とりかかりとして、畜産農家や家畜が減少している事実を伝え、そうした現象が、草原とどのように関わってくるのかを考えます。

牛を飼う農家や牛の頭数が減ると、それだけ餌として必要となる草の量が減るので、草の収穫量も減ります。良質な草をたくさん確保するために行っていた野焼きも、その必要性がなくなり、また作業を行う人の高齢化が進むことで、野焼きの継続が難しくなります。そして野焼きをやめると、草原は荒れてしまいます。

こうした一連の因果関係を子どもたちが理解できるように、順序だてて考えていきます。

草原が減少すると、どんな困ったことが起こるのか、話し合っ問題提起し、次項につなげていきます。

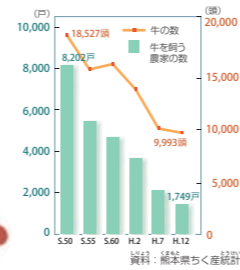
〈評価〉

阿蘇の草原の現状と問題点を理解できたか。

げんしょう 減少する草原

草原に行って気になったことがあります。緑の草原の中に、時々茶色のままの草原があるのです。

●牛を飼う農家の数と牛の数



あそこだけ、茶色の草がのびているよ。まわりから比べて、きちんと手入れされていない感じだね。

まさかずくのおじいさんが、農業やちく産業で働く人が減っていると聞いていたよ。

そういえば、おとうさんやおかあさんが子どものころには、家で牛を飼っていたって言ってたな。今でも、家には牛のえさを入れていたおけが残っているよ。

草原が荒れていることと、農家が減っていることは、関係があるのかもしれない。



農業を営む人や放牧される牛の数が減ると、草があまり使われなくなります。野焼きなどの作業を行う人も足りなくなり、草原を管理できなくなっていきます。そして、管理されなくなった草原は、荒れてヤブになってしまいます。

メモ

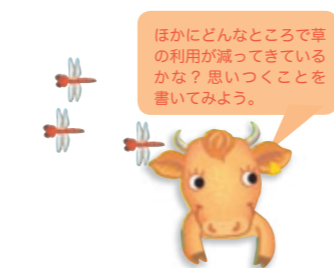
写真を見て感じたことを書いてみよう。

昔と比べて、必要とされる草の量が減っています。

昔は、どこの家の屋根も「カヤぶき屋根」といって、カヤ(スキヤオギ)が使われていました。そのため、草原に行って草を刈り、たくさんのカヤを手に入れていました。今では、かわらなどの工業製品による屋根がほとんどで、そのぶんだけ、草原の草が必要なくなったということです。



今ではめずらしくなくなったカヤぶき屋根の家



ほかにどんなところで草の利用が減ってきているかな？ 思いつくことを書いてみよう。

メモ

思いつくことを書いてみよう。

草の利用が減り、管理が行き届かなくなって草原が減少すると、どんなことが起こるのでしょうか。みんなと話しよに考えてみましょう。

草原に住んでいる、鳥や動物たちが困るんじゃないかな？



ヒバリ

阿蘇でしか見られない植物が絶滅してしまうかもしれないよ。



ツバキツモト

メモ

他に考えられることを書いてみよう。



ヤブが増えると、古い草原をじまんでなくなっちゃうよ。



いろいろと困ったことが起こることがわかりましたね。では、これらの問題を解決するには、どうすればいいでしょう。

確認と発展

●野焼きをやめた草原

Q 野焼きをやめた草原はどうなるのでしょうか？

A 荒れて藪になってしまいます。

〈解説〉 野焼きが行われなくなると、スキ、ヤマハギが巨大化し、枯れ草の堆積量が増えます。地表に草が生えなくなり、流土や山崩れの危険性も高まってきます。

●飼養頭数の減少

〈解説〉 「牛を飼う農家の数と牛の数」のグラフを見てわかるとおり、昔は多くの農家が牛を飼っていました。

かつては、牛は農耕や運搬に欠かせない労働力を提供するものとして、阿蘇のどこの農家でも飼われ、役牛として働く姿が見られたものです。しかし、トラクターが普及し、農業の機械化が進むにつれ、労働力としての牛の役割が激減しました。

その後、阿蘇の畜産は、農耕牛の飼育から肉牛の生産に比重が移り、母牛を飼育し子牛を生産して販売する形態へと変わってきました。しかし、1973年(昭和48年)のオイルショックによる物価・配給飼料価格の高騰や、1991年(平成3年)の牛肉輸入自由化に伴う子牛価格の下落、高齢化や後継者がいないなどの理由から、畜産をやめる人が増えて、飼育される牛の数も減ってきています。

けんたくんのお父さんは、子供の頃は家が農家で牛を飼っていましたが、現在は農業をやめ、商店を営んでいます。牛を飼う農家の減少を具体的に示すために、「昔は家で牛を飼っていた」という、けんたくんの発言を入れました。

※グラフの補足説明
グラフに示されている牛の数は、旧阿蘇郡における繁殖雌牛のものです。乳牛や馬は含まれていません。また、放牧されている牛だけではなく厩舎で飼育されている牛も含まれます。

Q どうして畜産で働く人や牛の数が減っているのでしょうか？

A 「牛肉の輸入自由化で国産の牛肉が売れなくなったから。」「農家のあとを継ぐ若い人たちが減ってしまったから。」などが考えられます。

本項の問いかけ

〈書き込み1には…〉

・野焼きが行われていない草原の写真を見て感じたことを書いてみます。「荒れている」「茶色くてきれいじゃない」など、写真から受けるマイナスイメージを捉え、なぜこのような状態になってしまったのかを考えていきます。

〈書き込み2には…〉

・草の利用が減っているとされる例を書き出してみます。「牛が減っているのでえさとして必要な草の量も減っている」「化学肥料があるので、草で肥料を作らなくてもよくなった」「お

盆になっても草原まで花を取りに行かなくなった」など。子どもたちが自力で思いつくのはむずかしいと思われるので、ヒントを提示してあげるとよいでしょう。

〈書き込み3には…〉

・草原が荒れたり、減ったりしたらどうなるか書いてみます。「草原の景色が見られなくなる」「オオルリジミがいなくなっちゃうかも」「観光客が減る」「おいしい牛肉が食べられなくなる」など。景観の劣化、動植物減少への危惧、観光価値の低下などが考えられます。

→問題点を把握し、解決のための取り組みへとつなげていきましょう。

語句参照

- 減少する草原 (参照先)
- ・草原ハンドブック P.40~41 P.58
- テーマ4：くらしと草原-草は大切な資源-3. 草原をめぐる問題
- テーマ6：くらしと草原3-火とともにあるくらし-1. 野焼き
- ・草原再生 HP
- http://www.aso-sougen.com/teaching/03.htm

コラム 減り続ける草原(野草地)

下の図は、明治・大正期からの草原面積の変化を示しています。図中、黒色で示す部分が、地図記号から判読した草原(野草地)です。昭和40年代を中心に植林や改良草地化が進み、草原が減少。その後も、野焼きや草刈りなどの管理作業の放棄による藪化や植林地・改良草地化などで草原が減り続けています。(草原ハンドブック P.40)

※野草地とは、多様な日本古来の植物が生育する草原のこと(草原ハンドブック p27、38 参照)



現在の国立公園地域における草原(野草地)面積の推移
(財)国立公園協会「自然景観における農業耕地・草地の景観安全管理手法に関する調査研究」(H7)